

2021年4月28日

第2回

下水道における新型コロナウイルスに関する
調査検討委員会

資料7



北大・塩野義法による分析体制

北海道大学 北島正章

塩野義製薬





北海道大学



北島正章 准教授 (北海道大学 工学研究科)

- 下水疫学の国内第一人者の一人
- 東大博士卒→アリゾナ大→MIT(Singapore)→現職
- COVID-19の下水疫学の論文は19本で国内最多、グローバルでもトップクラスの業績
- オリンピックリスクアセスメントの研究グループ (MARCO) メンバー
- 国内初、下水試料からSARS-CoV-2検出成功
- 塩野義との共同研究により、**従来手法に比べ約100倍高感度のウイルス検出手法**を開発



夏目徹

産総研 創薬分子プロファイリング研究センター長
ロボティクス・バイオロジー・インスティテュート社 取締役



- ヒト型汎用ロボットシステム「まほろ」開発者
- **ロボットによる下水疫学調査自動化を委託**
- シオノギが開発した新手法を自動化ラインで実行、ウイルス量を定量予定



佐藤孝明

筑波大学プレジジョン・メディスン開発研究センター長
iLAC社 サイエンティフィックファウンダ
株式会社島津製作所 フェロー



- 日本のNGS解析のシェアNo1
- **変異解析などを委託**することで、変異状況のデータをオプションとして提供する予定

プレスリリース 2021/03/19

下水中の新型コロナウイルスの自動解析体制構築へ ～ウイルス感染症流行及び変異株の早期検知・大量検査インフラ の構築に期待～

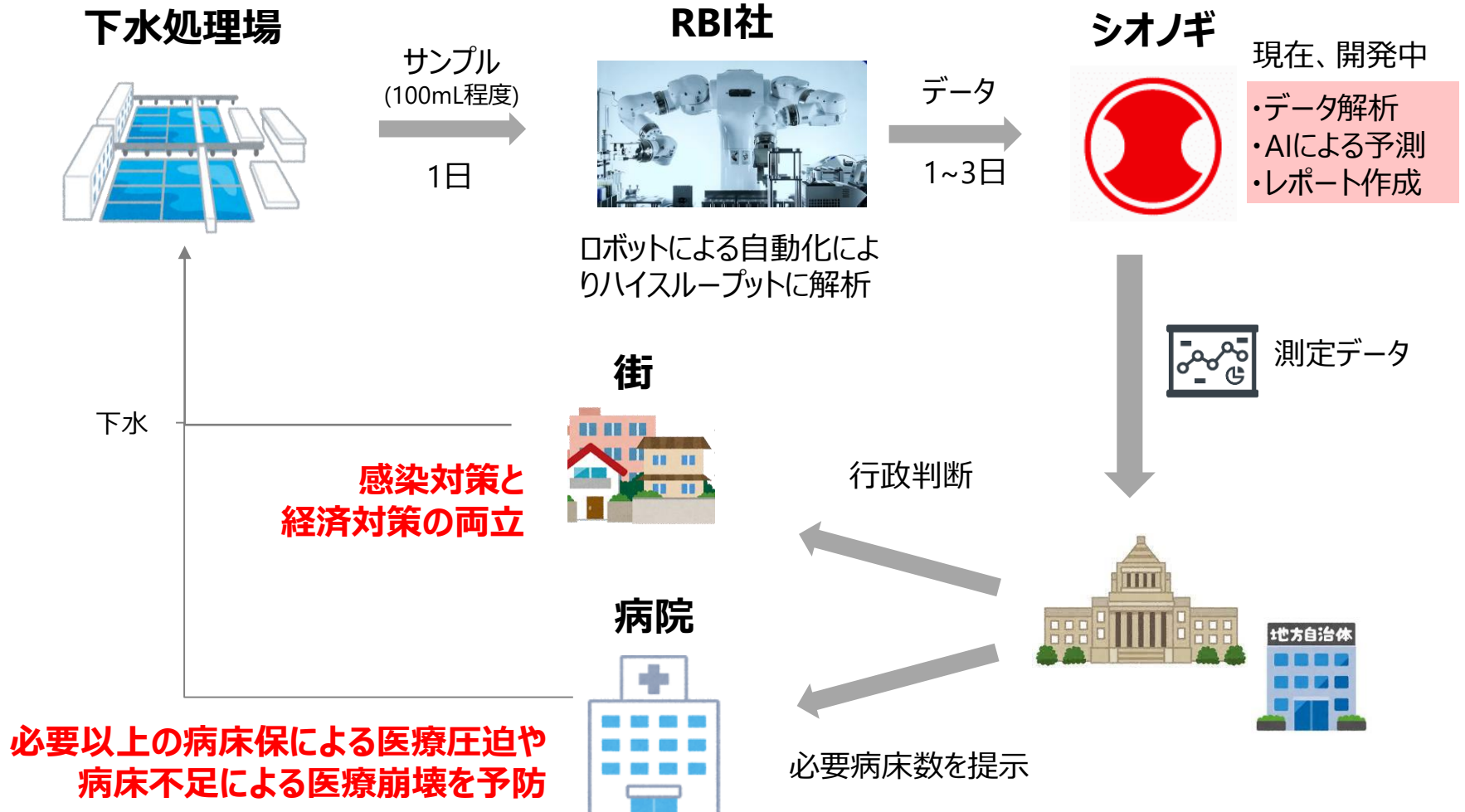
【概要】

北海道大学（北海道札幌市，総長：賈金清博），ロボティック・バイオロジー・インスティテュート株式会社（東京都江東区，代表取締役社長：松熊研司，以下「RBI」），株式会社iLAC（茨城県つくば市，取締役：入江新司，以下「iLAC」）及び塩野義製薬株式会社（大阪市中央区，代表取締役社長：手代木功，以下「塩野義製薬」）は，下水疫学に基づき新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）をモニタリングする調査について，自動解析体制の構築に向け4者間で基本合意書を締結しました。

【事業の内容】

- 目的 下水疫学に基づきウイルス感染症流行及び変異株の侵入・発生動向を早期に検知し，大量検査の実施が可能な自動解析体制を構築
- 契約締結 2021年3月19日
- 分析業務開始 2021年4月以降

サービスの流れ



データをリアルタイムに省庁・自治体へ送付することで、タイムリーな行政判断に繋げる

プレスリリース 2021/04/14

大阪府で下水から新型コロナ流行状況のモニタリングを開始 ～ウイルス感染症流行及び新規変異株の早期検知を目的とした社 会実装～

- 4月15日～6月14日の2ヵ月
- 府内10処理場にて毎日～週3回の頻度
- 健康医療部、都市整備部とシオノギにて役割を明確化